

製品名: SLP-76 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab17980**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	60kDa

抗原情報

遺伝子名	LCP2
別名	LCP2; Lymphocyte cytosolic protein 2; SH2 domain-containing leukocyte protein of 76 kDa; SLP-76 tyrosine phosphoprotein; SLP76
遺伝子 ID	3937.0
SwissProt ID	Q13094
免疫原	SLP-76 由来の合成ペプチド。アミノ酸範囲: 270-350

背景

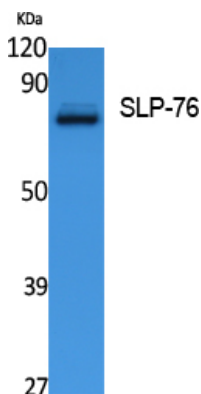
SLP-76 は、もともと白血病 T 細胞株 Jurkat における T 細胞受容体 (TCR) ライゲーション後の ZAP-70 タンパク質チロシンキナーゼ

の基質として同定されました。SLP-76 遺伝子座はヒト染色体 5q33 に局在し、遺伝子構造はマウスで部分的に特徴付けられています。ヒトおよびマウスの cDNA はともに、72% 同一で 3 つのモジュールドメインからなる 533 アミノ酸タンパク質をコードしています。NH₂ 末端には、TCR ライゲーション後にリン酸化される PEST ドメインといくつかのチロシン残基を含む酸性領域が含まれています。SLP-76 は、中央のプロリンリッチドメインと COOH 末端の SH2 ドメインも含んでいます。受容体ライゲーション後に恒常的および誘導的の両方で SLP-76 と関連する多数の追加タンパク質が同定されており、SLP-76 がアダプターまたは足場タンパク質として機能するという考えを裏付けています。SLP-76 欠損 T 細胞を用いた研究 c ドメイン: SH2 ドメインは SHB との相互作用を媒介する。機能: T 細胞抗原受容体を介したシグナル伝達に参与する。PTM: ZAP-70 による T 細胞受容体活性化後にリン酸化される。類似性: 1 つの SAM (sterile alpha motif) ドメインを含む。類似性: 1 つの SH2 ドメインを含む。サブユニット: SLA と相互作用する。CBLB と相互作用する (類似性による)。アダプタータンパク質 GRB2 および FYB と相互作用する。SHB と相互作用する。PRAM1 と相互作用する。組織特異性: 脾臓、胸腺、末梢白血球で高発現する。T 細胞および単球細胞株でも高発現し、B 細胞株では低レベルで発現する。線維芽細胞株および神経芽細胞腫細胞株では検出されない。

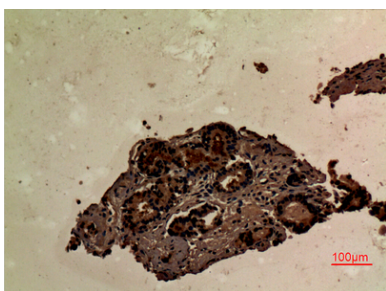
研究分野

ナチュラルキラー細胞を介した細胞傷害性; T 細胞受容体; Fc イプシロン RI;

画像データ



SLP-76 ポリクローナル抗体を用いた Jurkat 細胞抽出物のウェスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈された。



パラフィン包埋ヒト前立腺癌の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された